



田植えに役立つ山の雪



雪が残る山並みを遠景にした代かき（水を入れた水田で土を砕き、ならす作業）や田植えは、日本の典型的な田園風景の一つです。里の雪は苦勞の種ともなりますが、山の雪は米作りに役立つ面をもっています。

◆田植えの時期を告げる「雪形」

雪形を知っていますか？
山に積もった雪が解け、白い雪と黒っぽい山肌で形作られる模様のことです。主に4月から6月に見られ、田植えの時期などと重なることから、昔から農作業の目安にされてきました。このため農業に関わる名前が多く、白馬岳の「代かき馬」、爺ヶ岳の「種まき爺さん」などが代表的です。
雪形が現れるほど雪解けが



進むと、川の水量はそれまでの数倍に増えて水田を潤うるしてくれますす。このように、日本の雪山は、下流の農地が水を必要とする春から初夏に雪解け水をたたつつぶぶりりと供給いよせしてくれているのです。



◆雪解け水をゆっくりと送りだす森林

森林があると雪解け水がさらに使いやすくなります。その秘密ひみつは、森林が雪解け水に与あたえる二つの「ゆっくり」です。一つ目は、樹木じゆもくが日光を遮さかるため雪解けがゆっくりと進むことです。二つ目は、森林が育てたふかふかの土に雪解け水がしみ込んで地下水となり、ゆっくりと川

まで動ういていくことです。これに対して、土が少ない岩山などでは雪解け水が一気に流れてしまい、洪水こうずいのようになってしまいうため、農業に利用するのがなかなか難むづかしくなります。

日本にておいしいお米ができるのは、恵めぐまれた自然とそれを上手じょうずに利用する知恵ちえがそろっているからなのです。

